

第4回PCV漏えい試験検討会 議事録

1.開催日時 平成15年6月19日(木) 13:30~15:30

2.場 所 (社)電気協会 4C会議室

3.参加者

委員 員：森中主査(関西電力),大野副主査(東京電力),小林(核燃料サイクル
開発機構),鞍本(電源開発),桑原(三菱重工業),味森(東芝),久米(日
立),最所(北陸電力),波多野(中部電力),玉井(北海道電力),竹内(日
本原電),小川(中国電力) (計12名)

委員代理者：佐藤(発電技検・小谷地代理),遠藤(東北電力・河上代理) (計2名)

委員欠席者：古泉(四国電力),笠(九州電力) (計2名)

常時参加者：森本・西住(関西電力) (計2名)

オブザーバ：結城・齋藤(経済産業省 原子力安全・保安院) (計2名)

事 務 局：福原・上山(日本電気協会)

4.配付資料

資料 No.4-1 第3回PCV漏えい試験検討会議事録(案)

資料 No.4-2 第6回構造分科会議事録(案)

資料 No.4-3 第10回原子力規格委員会議事録(案)

資料 No.4-4 原子炉格納容器漏えい試験規程(JEAC4203-1994)改定案(本文)

資料 No.4-5 原子炉格納容器漏えい試験規程(JEAC4203-1994)改定案(比較表)

資料 No.4-6 原子炉格納容器漏えい試験規程(JEAC4203)改定案に対するコメント
対応一覧表

参考資料-1 原子力規格委員会 審議のあり方について

参考資料-2 原子力規格委員会 表彰規約について

参考資料-3 原子力規格委員会 規約及び運営細則の改定について

参考資料-4 原子力規格委員会 規格作成手引きに則って策定された規格の例示につ
いて

参考資料-5 原子力規格委員会 構造分科会 PCV漏えい試験検討会委員名簿案

5. 議事内容

(1) 前回議事録(案)の確認

資料 No.4-1 に基づき、事務局より前回議事録(案)の紹介があり、一部の誤記修正の他は、コメントなく了承された。

(2) 構造分科会および原子力規格委員会の活動状況について

資料 No.4-2 ~ No.4-3 および参考資料-1 ~ 参考資料4 に基づき、事務局より第6回構造分科会および第10回原子力規格委員会の議事録案から本検討会に関連する情報の報告があった。本件に関する、質疑は特になかった。

(3) 原子炉格納容器漏えい試験規程(JEAC4203-1994)改定案について

資料 No.4-4 ~ No.4-6 に基づき、森本氏(常時参加者)より、題記改定案の構造分科会および原子力規格委員会のコメント対応が紹介された。

主な質疑は、以下のとおり。

C. 米国の規制(10CFR50 Appendix J)との整合は見ているのか。「弁の増し締め」、
「試験前の必要条件」等の解釈は特に重要と考えるが。また運用面も含めて米国の実態調査をしてみてもどうか。

A. 「弁の増し締め」については、本文に禁止要求を記載する方向で検討している。
「試験前の必要条件」では、バウンダリー隔離弁をダブルとする内容としており、整合が取れていると考えている。また、その他規制内容や運用についての調査を予定しているが、JEAC改定案の成案に向けて時間的制約もあり、段階的な改定を予定している。

Q. 第一段階の改定案上程を9月目途(第12回原子力規格委員会)に考えてきたが、
検討課題の対応によっては遅れる可能性が出てくる。この点について問題はないか。

A. 上部委員会(分科会・規格委員会)に変更理由の正当性を報告すれば問題ない。
また、今回の改定案内容に関し、事業者からの早急なニーズ性がなければ問題はない。ただし、技術基準の性能規定化に伴う規格(現行の技術基準に事実上適用されているJEAC/JEAG)の制定を15年度内に行うという計画も踏まえてご検討願いたい。

C. 現場における検査実態を調査して、本試験がよりワークブルなものとなるよう JEAC の規定内容を改訂・充実しなければならない。また、段階的な改定を考えるのであれば、米国などとの比較も含めて短期と中長期的な課題に分類し、ロードマップを作成した後に今回の改定内容を明確にするべきでは。課題については METI 側からも本検討会に提出したい。

A. 反映する方向で検討する。

C. 規程の構成として、いきなり個別の試験方法について記載するのではなく、PCV L/T の大前提（目的、要求機能）を示すべき。また、試験（A 種・B 種・C 種）の関連および不適合発生時の対応措置等をフロー図で表わす等、分かり易い工夫が必要ではないか。

A. 反映する方向で検討する。

C. 全体として透明性、やりやすい、分かりやすいを目指した規程とすべきである。気付きとして、コードではなくガイド的な話かもしれないが、例えば試験中における気圧変化の影響や水蒸気圧の算出について、より充実した記載とするようなことも行っていくべきではないか。

A. 反映する方向で検討する。

以上の議論を踏まえ、8月6日開催の構造分科会前に検討会としての方針（改定案 rev も含む）を出すことになった。

(3) その他

次回開催は、7月第4週を予定とし、別途開催連絡を行う。

以上